



たんと繁盛

記者発表資料

令和元年7月19日

大阪経済記者クラブ会員各位

「大阪におけるスーパーシティのあり方」に関する提言について ～スーパーシティ「Wellness Centric Inclusive and Vibrant City」の構築を めざす6つの提案と今後の進め方～

【問合せ】大阪商工会議所 産業部（槇山・東（あずま））

TEL： 06-6944-6486

- 大阪商工会議所は、スーパーシティ構想が制度化されることを想定し、大阪で進めるべきスーパーシティのコンセプトと、その実現にむけた具体策、及び今後の進め方について「大阪におけるスーパーシティのあり方」としてとりまとめ、今月中に大阪府、大阪市に提言する。
- スーパーシティは、様々なデータを分野横断的に収集、整理し提供する「データ連携基盤」を軸に、地域住民等にサービスを提供し、住民福祉・利便性向上を図る都市。住民合意を前提に、思い切った規制緩和を行い、新しい取り組みを行うことが求められる。そのため、解決すべき地域課題を明確にした取り組みを企画することが必要となる。
- 大阪におけるスーパーシティにおいては、大阪が世界に先行する社会課題である少子高齢化への対策、健康寿命延伸、今後さらに増加が顕著となる訪日外国人との共生に対応し、「誰もが心身の健康を維持し、思いのままに活動的な生活ができる社会（『Wellness-Centric Inclusive and Vibrant City』）」をめざすコンセプトを掲げ、6つの具体策を提案する。
- 併せて、提案の具体化のために、大阪府、大阪市、大商、関連する企業等による具体的なプロジェクトやデータプラットフォームのあり方を検討する官民一体の体制の整備や、先行プロジェクトの立ち上げ、積極的な実証の推進を求める。
- なお、国に対しては、スーパーシティ構想関連法案の早期成立を求める。

<参考：6つの提案と具体化する今後の進め方>

1. 大阪におけるスーパーシティを具体化する6つの提案

- ①簡単に健康状態を計測し、無理なく継続できる方法で健康維持、疾病予防
- ②最適な在宅・日常の疾病管理、安心な救急対応、利便性の高い医療
- ③効率的で機能改善効果も期待できる介護
- ④誰にとってもストレスフリーで、積極的な生活を支える交通
- ⑤誰にとっても便利で、使いたくなる金融システム
- ⑥オンライン教育による人材育成、実践教育で行政データを活用

2. 大阪のスーパーシティを具体化する今後の進め方

- ①大阪のスーパーシティを官民一体で検討する体制整備
- ②大阪のスーパーシティを構成するプロジェクトの検討
- ③「データ連携基盤」の検討
- ④先行プロジェクトの組成と積極的な実証の推進

以 上

添付資料 資料1 「大阪におけるスーパーシティのあり方」に関する提言
 資料2 同 説明資料

「大阪におけるスーパーシティのあり方」に関する提言

～スーパーシティ「Wellness-Centric Inclusive and Vibrant City」
の構築をめざす 6 つの提案と今後の進め方～

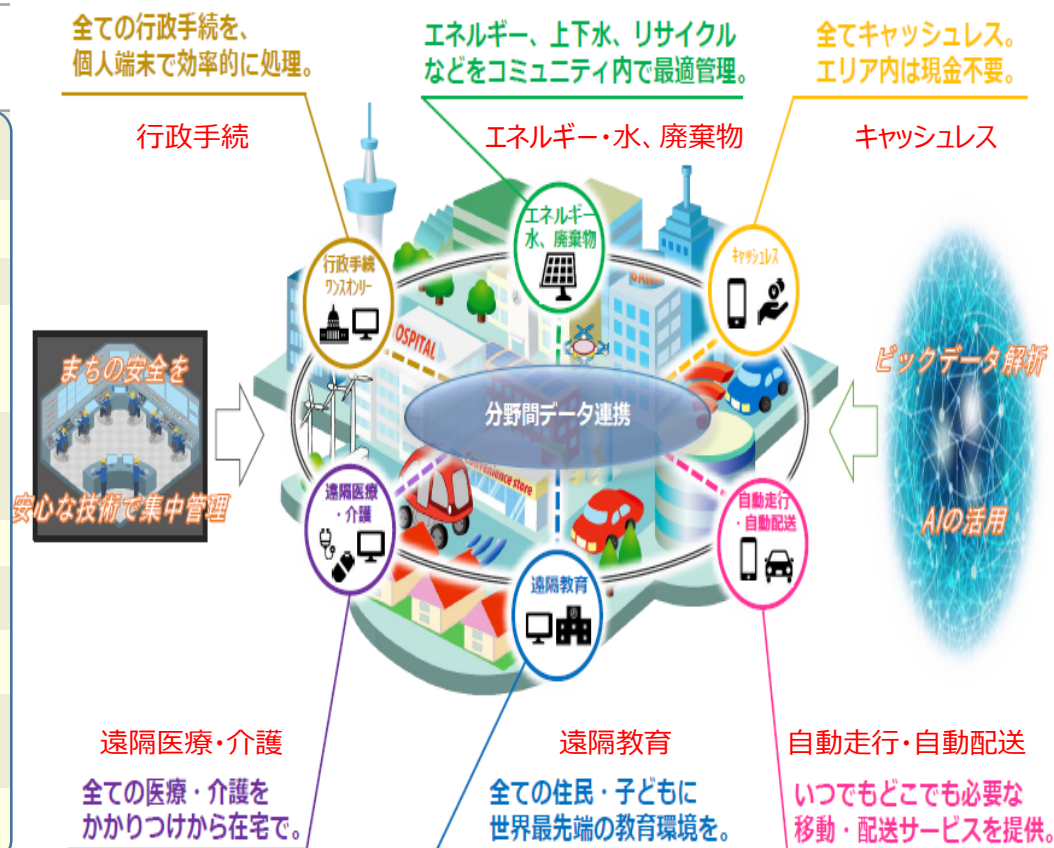
大阪商工会議所

スーパーシティの概要

スーパーシティ：様々なデータを分野横断的に収集・整理し提供する「データ連携基盤」を軸に、地域住民等に多様なサービスを提供し、住民福祉・利便性向上を図る都市。
第4次産業革命後の未来社会、生活を先行して実現するショーケースで、2030年頃の実装をめざすもの。

1つのエリアで、以下のような領域のうち、少なくとも5分野をカバー

移動	自動走行、交通量管理 駐車管理、MaaS
物流	自動配送、ドローン配送
支払い	キャッシュレス
行政	パーソナルデータ、ワンストップ窓口、APIガバメント、ワンスオンリー
医療・介護	AIホスピタル、データ活用、オンライン診療、医薬品配達
教育	AI活用、遠隔教育
エネルギー・水	スマートシステム
環境・ゴミ	スマートシステム
防災	緊急時自立エネルギー供給、防災システム
防犯・安全	ロボット監視



出典：内閣府資料「スーパーシティ」構想についてより抜粋

スーパーシティ指定の意義と検討において考慮すべき事項

大阪がスーパーシティ指定を受ける意義

- スーパーシティの特区指定を受けることで、規制緩和や住民参加により、これまで進展が困難であったプロジェクトを推進し、万博や万博後の大阪で最先端都市のモデルケースを創出し、実装する取り組みを加速する

スーパーシティで進めるプロジェクトのあり方を検討する際、考慮すべき事項

- 地域の課題を明確にすること
- ペルソナで、どのように生活が改善されるかが表現できるような内容であること
- 技術ありきの提案でないこと
- 複数の規制緩和が必要であること
- 様々なデータを連携して活用することが想定されること

7月中を目処に大阪府・大阪市に、「大阪のスーパーシティのあり方」について提案予定

1. スーパーシティの枠組みを利用して、大阪で解決すべき課題と解決策となるプロジェクトについて提案
2. 「1」の具現化のために、大阪のスーパーシティを検討する官民一体となる体制整備を要望
3. 「1」で提示するコンセプトにマッチした具体的なプロジェクトの検討着手を提案
4. 「データ連携基盤」の検討を提案
5. 積極的に先行事例を創り、実証を推進する一段の注力（実証フィールドの整備）を要望

スーパーシティを活用して大阪が解決すべき6つの課題



地域の課題

- 少子高齢化のスピードが速い
- 健康寿命が短い
- 単身・二世帯が多い
- 増加する訪日外国人との共生



課題を解決し得る地域のポテンシャル

- 世界共通の課題が先行して訪れるため、未来社会に向けた実証の先行実施が可能
- 先端医療から日常の健康維持まで、幅広い健康・医療分野の企業、アカデミア、病院等が集積
- 未来社会を創る新しいビジネス(MaaS、次世代金融システム、まちづくり)関心企業、AIやIoT等、最先端テクノロジーを有する企業が集積
- 万博等に伴う投資機会が存在
- 観光産業拡大の機会が存在

ポテンシャルを最大限に
活かした課題解決型
スーパーシティの実現



大阪のスーパーシティで取り組むべき課題

1. 高齢者から現役世代まで、様々な市民の健康維持・疾病予防を実現
2. 病気になってもQOL（生活の質）を維持・改善、あらゆる人にとって利便性の高い医療環境の整備
3. 被介護者が快適で機能改善効果もあり、人手不足を補う効率的な介護の実現
4. 誰にとってもストレスフリーで充実した生活を実現する交通インフラの整備
5. 誰にとっても便利で、利用したくなる金融システム
6. AIやデータを実ビジネスに活用できる人材の育成と 行政データ活用

スーパーシティを活用して、大阪が取り組むべき 6つの提案（課題解決策）

提 案
1

簡単に健康状態を計測し、無理なく継続できる方法で健康維持・疾病予防

- ◆ IoT活用により健康状態を日常生活の中で簡単に計測
- ◆ データをAI分析し、各個人に最適で無理なく継続できる健康改善メニューを提供

医療データ活用、
MaaS、パーソナル
データ

提 案
2

最適な在宅・日常の疾病管理、安心な救急対応、利便性の高い医療

- ◆ オンライン診療による在宅で疾病管理や、リアルタイムの救急対応、そこから導きだす新しいタイプの医療の確立
- ◆ 病院へのAI積極導入で高度医療の推進や患者にとって快適な医療環境

パーソナルデータ、オ
ンライン診療、AIホ
スピタル、自動配送

提 案
3

効率的で機能改善効果も期待できる介護

- ◆ 被介護者データのAI分析により、健康状態悪化を予測し、悪化が予想される対象に集中的に介入を実施。機能改善の効果が期待される効率的な介護の実現
- ◆ 介護ノウハウをAI分析、可視化した人材育成

AI介護、パーソナル
データ、オンライン教
育

提 案
4

誰にとってもストレスフリーで、積極的な生活を支える交通

- ◆ 病院や薬局の待ち時間と連動したオンデマンド交通やラストマイルを担うグリーンスローモビリティなど、積極的な生活を可能にする交通
- ◆ 災害時・緊急時に対応できる多言語移動手段

MaaS、自動運転

提 案
5

誰にとっても便利で、使いたくなる金融システム

- ◆ ウェアラブルデバイスによるキャッシュレス決済。魅力あるポイント還元
- ◆ 健康行動でポイント獲得
- ◆ 同じデバイスで取得したバイタルデータ、位置情報、購買履歴はビッグデータとして利活用

キャッシュレス、
パーソナルデータ

提 案
6

オンライン教育による人材育成 実践教育で行政データを活用

- ◆ オンライン教育によるAIやデータ活用人材の育成 アジア圏の学生の取り込み
- ◆ 教育、研究において行政の実データを活用し、その効果を検証、実装につなげる

情報インフラ、
オンライン教育、
パーソナルデータ

※ 内は提案に関連するカバー領域（p2参照）

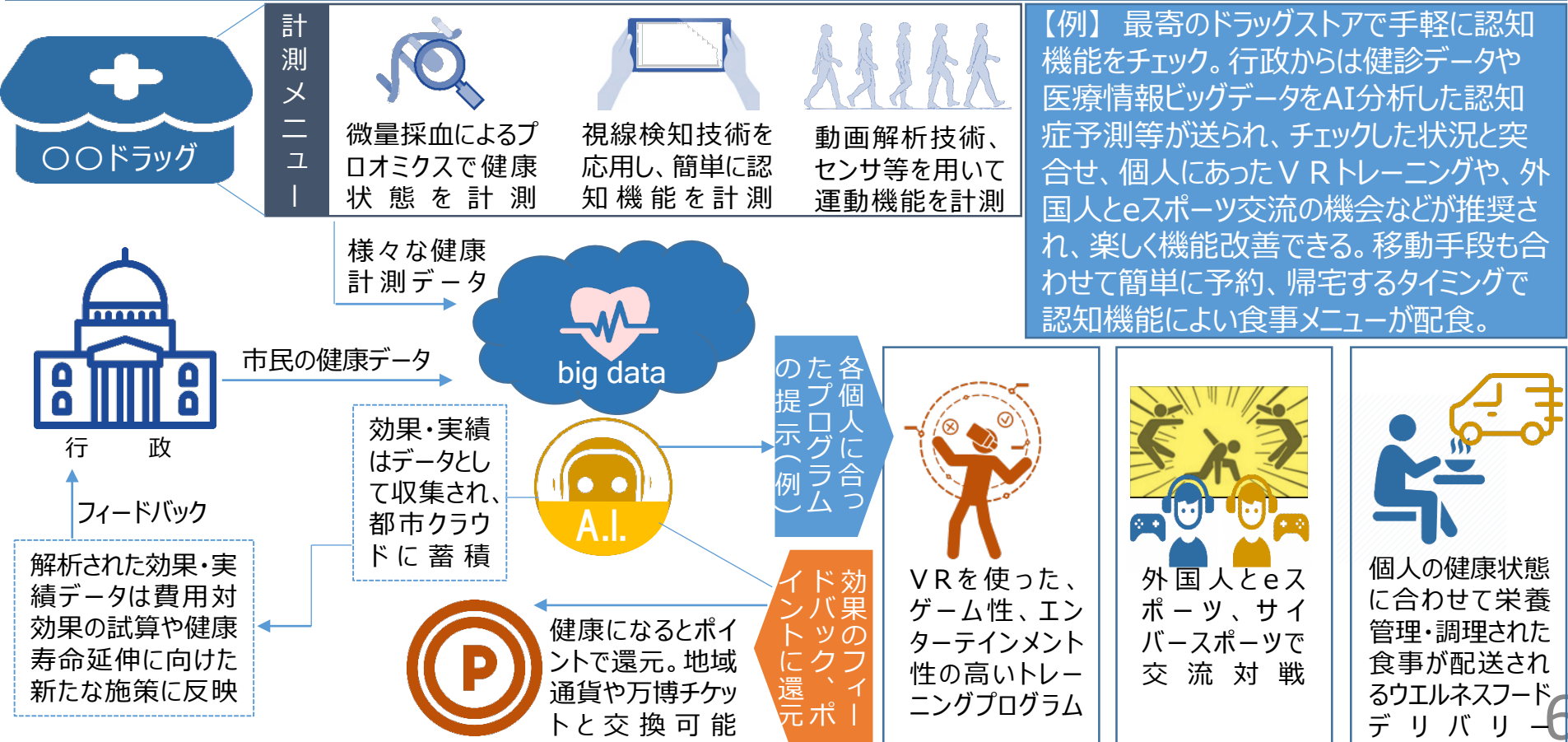
めざす大阪のスーパーシティ：Wellness-Centric Inclusive and Vibrant City

少子高齢化が進んでも、誰もが心身の健康を維持し、思いのままに活動的な生活ができ、市民、訪日外国人共にストレスなく快適で、好みに応じた楽しみを享受できるまち。

簡単に健康状態を計測し、無理なく継続できる方法で健康維持・疾病予防

日常生活の中で気軽に健康計測、個人の状況や好みに合う楽しみながら継続できる健康改善

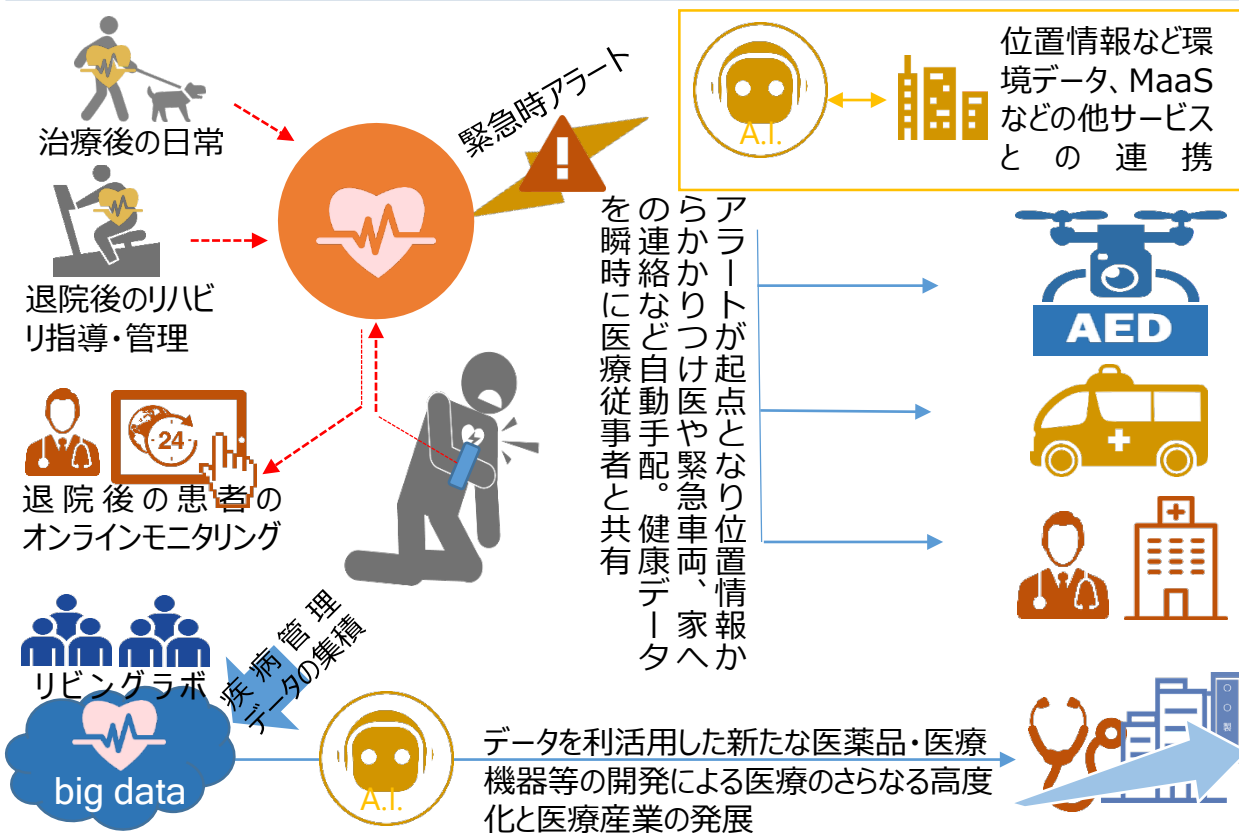
認知機能や運動機能など健康寿命を左右する機能を、センサー、IOT等を活用した機器により、日常生活の中で（ウエルネスステーション等）簡単に計測。計測データは個人が管理。健診データや医療関連データと突合せ、結果はAIで分析され、最適の改善策で、各個人の個性に合い、楽しく継続できるXR活用のデバイスや、ゲーム性を高めたサイバースポーツ、人と交流できる機会や場所、栄養管理された食事メニュー等の情報が配信され、予約、移動もスマホ一つで完結。改善策の効果はデータで検証し、健康活動自体が健康ポイントとして換算され、地域通貨として利用できる。行政は個人の健康状態をビッグデータで分析、施策に反映。



最適な在宅・日常の疾病管理、 安心な救急対応、利便性の高い医療

遠隔で医師の指導を受け、適切な在宅疾病管理で重症化予防、安心できる救急対応

循環器病やがんなど、病院での治療後、在宅での管理が重要な疾病を確実にケア。日常のバイタルデータ、食事、運動、睡眠などのデータをウェアラブルデバイスにより測定、管理。医師はクリニック内で、遠隔で患者の状態をモニタリング。治療後リハビリについても、安全に効果的に行われているリハビリ機器でデータをとって検証し、遠隔で医師や理学療法士が指導。リアルタイムのバイタルデータにより緊急時にも即座に対応策が講じられる。多くの患者が登録するリビングラボで疾病管理データを収集し、そのビッグデータをAI分析することにより、疾病管理方法の精度が向上し、新たな医療の開発にもつなげる。



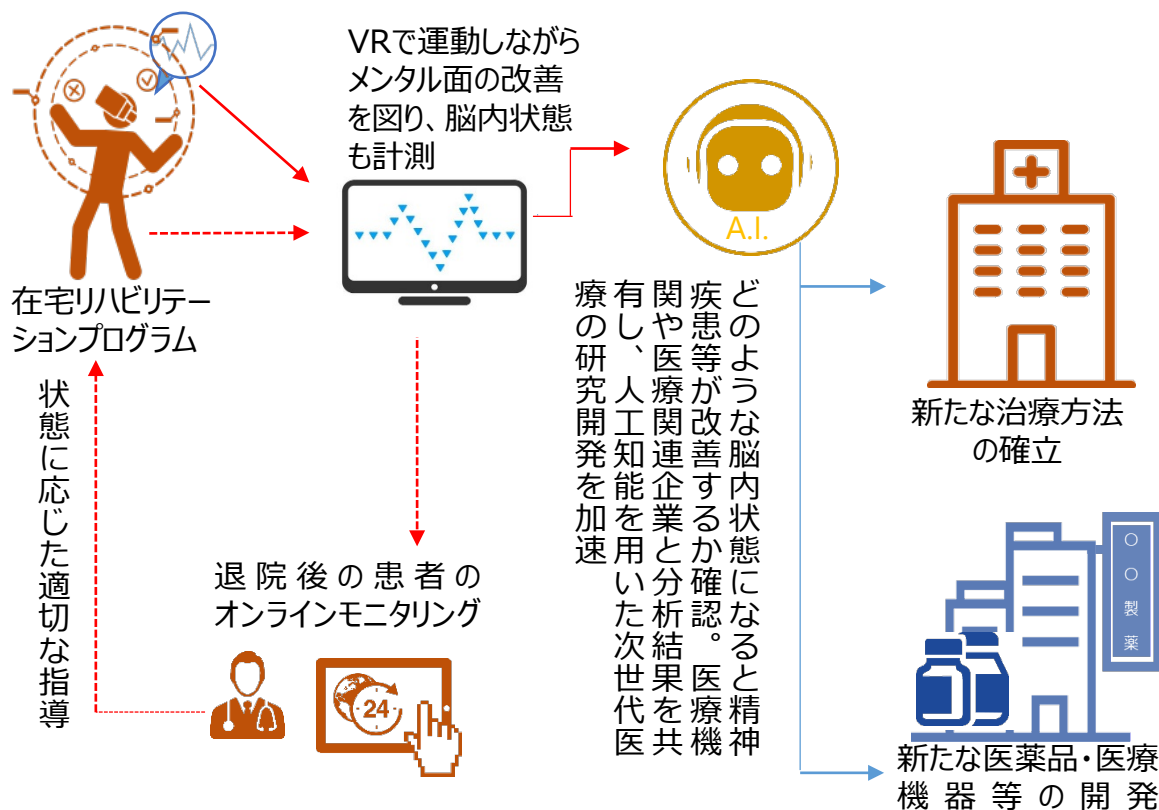
【例】

昨年、「脳卒中、循環器病対策基本法」が成立し、今後、循環器病患者に対する良質な治療、リハビリの推進が図られる。例えば心不全の場合、退院後の自己管理が、その後の悪化防止に重要。患者のバイタルデータ等をウェアラブルデバイスで常時計測し、医師は病院内にてカルテデータとつぎ合わせて遠隔で指導、指示を行う。在宅リハビリも、安全に効果的に実施するために、リハビリ機器からクリニックに直接運動データが送られ医師が確認。バイタルデータにより緊急時にはMaaSで救急車が配車されたり、AED搭載のドローンが即座に到着。多数の患者データから、より効果的な心不全対策の新たな医療の開発も可能になる。

最適な在宅・日常の疾病管理、 安心な救急対応、利便性の高い医療

毎日の在宅疾病管理を分析し、効果のある新しい医療の確立も

精神疾患やメンタル状況の機能改善を、在宅でも実施し効果を測定。医師は遠隔でリハビリの状況確認して、指導するとともに、効果が出ている場合、その脳の状況を把握。どういった脳の状態が精神疾患やメンタルの状態を改善していくのか分析することにより解明し、その後のAIを活用した疾病管理に反映。



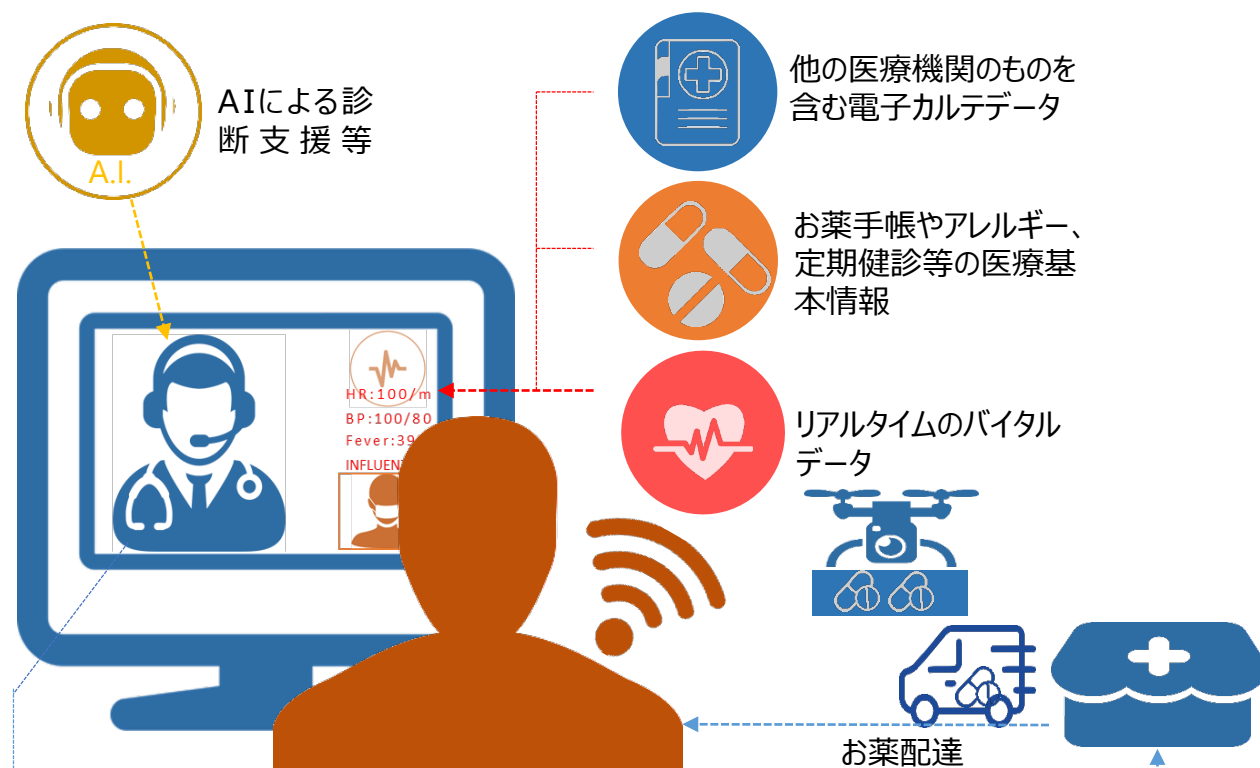
【例】

うつ状態など、メンタル面での問題をもつ対象者が在宅でVRゲームでリハビリ。リハビリ中に非侵襲なデバイスにより、脳内物質の状況をモニタリング。そのデータとうつ状態の改善データとをつき合わせてAI分析し、VRリハビリでどういった脳内物質状況になるか、どういった状態だと、うつ病が改善するか分析。得られたデータにより、新しい治療法や薬を開発

最適な在宅・日常の疾病管理、 安心な救急対応、利便性の高い医療

適切で、さらに利便性の高いオンライン診療の推進

オンライン診療の適用拡大を図り、患者本人の負担を軽減し、病院、クリニックと連携して、適切で利便性の高い医療環境を整える。感染症等に関するオンライン診療適応は、感染拡大を防ぐ効果もあげられる。利便性の高いオンライン診療を受けるには、自分で健診データやバイタルデータなど健康データの管理を普段から行い、その情報を提供することを条件とし、健康データ管理の普及も図る。



患者及び、患者の所在地に近い調剤薬局に処方箋を送信

【例】

健診データや日常バイタルデータやお薬手帳をデジタルで管理している個人については、インフルエンザの流行時、予防的処方のためにオンライン診療で対応可能とする。処方箋は直接薬局に届き、インフルエンザ薬は自宅に自動配送。すでに罹患した可能性が高い場合は、咽頭のAI画像診断をオンラインで行ってから処方箋を出すか判断される。

最適な在宅・日常の疾病管理、 安心な救急対応、利便性の高い医療

病院まるとAI化推進

病院の様々な機能にAIを導入。精密な診断や医師のスキルを補強、強化する先端治療や、患者個人にとって最適の治療が選択できる個別化医療を可能に。入院患者を確実にモニタリングし、診療時の患者と医師のコミュニケーションを深め、患者にとり安心してわかりやすい医療を提供。外国人向けに多言語対応もAI翻訳で簡単に。

診療時音声情報のAIによる文章化 多言語対応

PCばかり見てないで、こっち向いて話してほしい！

気分はどうですか？

No entiendo la terminología médica en inglés.

え〜とスペイン語で急性アレルギー性胃腸炎？

ちゃんと目を見て話してくれて、信頼できそう！

ご不明な点はないですか？

医師と患者の会話内容を認識。カルテの基本情報はAIが記入。外国人患者にはAIが診療内容を翻訳

Puedo tomar un examen médico con confianza

¿Tienes alguna pregunta?

リキッドバイオプシーによる超精密医療

脳 腫 瘍
髄 液

頭 頸 部 が ん
唾 液 ・ 血 液

肺 が ん ・ 卵 巣 が ん
胸 水 ・ 腹 水 ・ 血 液

腎 が ん、膀胱 が ん 等
尿 ・ 血 液



組織を採取するよりも侵襲性が低く、安全で安価に検査できる

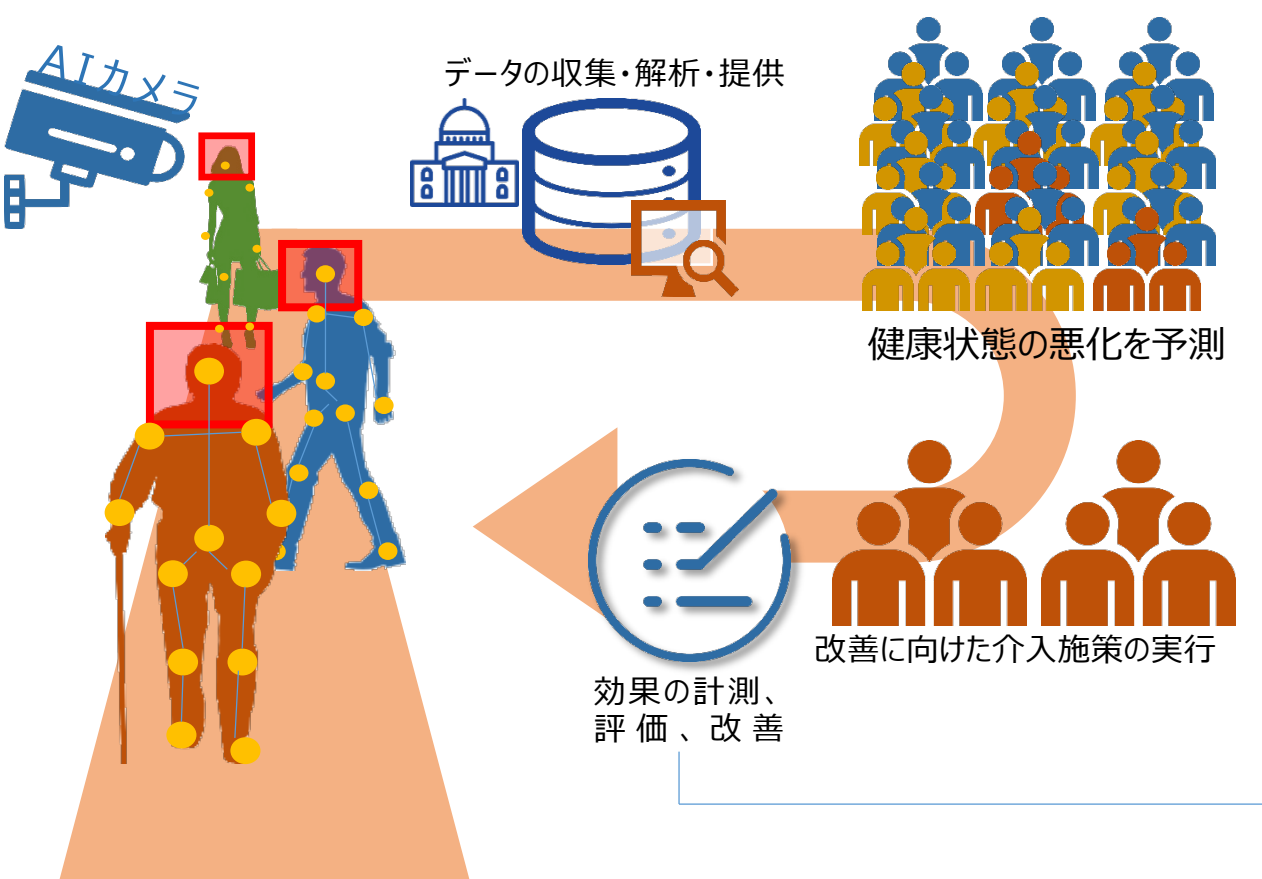
1. がんのスクリーニング
2. 術後の腫瘍残存細胞の有無
3. 分子標的治療薬などの選別
4. 再発の超早期診断
5. 抗がん剤治療の効果判定

1. がん検診率が低い。症状が出てから進行がんと診断されるケースが少ない。早期に診断されると治療の可能性が高くなり、治療費が節減される
2. 治療効果や再発の有無をより精度高く、早く判定できる
3. 治療法を適切に判定できるため、無駄な抗がん剤による副作用を回避できる
4. 分子標的治療薬の選択にも応用できる

効率的で機能改善効果も期待できる介護

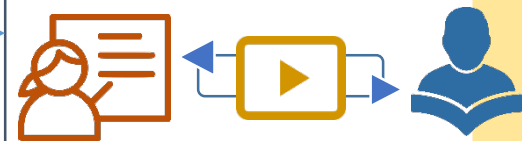
健康悪化を予測して介入を強化して状態維持、改善。ノウハウ普及もAI、遠隔教育で

効果がある介入、効率的な介護を実施するために、介護施設などで高齢者の行動をAIで分析し、重症化しそうな対象に選択的介入を行う。例えばAIカメラでロコモ、各入居者のフレイル状態を分析し、悪化が見られる対象者の運動リハビリを強化する。また、優れた介護を行うヘルパーの介護手法をAIで分析して可視化し、オンライン教育でそのノウハウを広め人材育成を強化する。

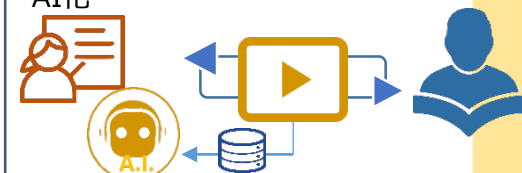


コーチングAIによる介入施策の高度化

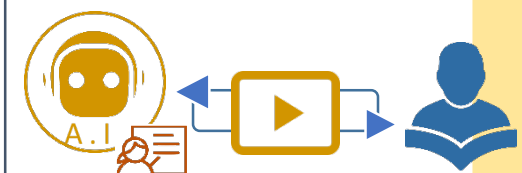
現在：実践・指導動画を介したオンライン指導



実践・指導動画を収集し指導内容を徐々にAI化



AI師範代



誰にとってもストレスフリーで 積極的な生活を支える交通

高齢者や外国人にも利便性が高く、活動的な行動を可能とする交通システム、災害対応も強化

高齢者や患者、障がい者を対象にしたMaaS対応。病院や介護施設、ドラッグストア等と連携し、そうした施設内での待ち時間情報が送られ、オンデマンド交通に反映。自動運転の乗り合い小型カートなどを利用したグリーンスローモビリティがリーズナブルな定額料金制度などで広く普及。コミュニティのリレーションや外国人との交流の場にも積極的参加でき、活動的な生活を支える便利な移動手段となる。

訪日外国人には、個人の嗜好やこれまでの行動の特徴、その日の体調などを分析し、訪れる場所や体験するアクティビティ等を移動手段とともに提示して予約まで行える定額制サービスを提供。

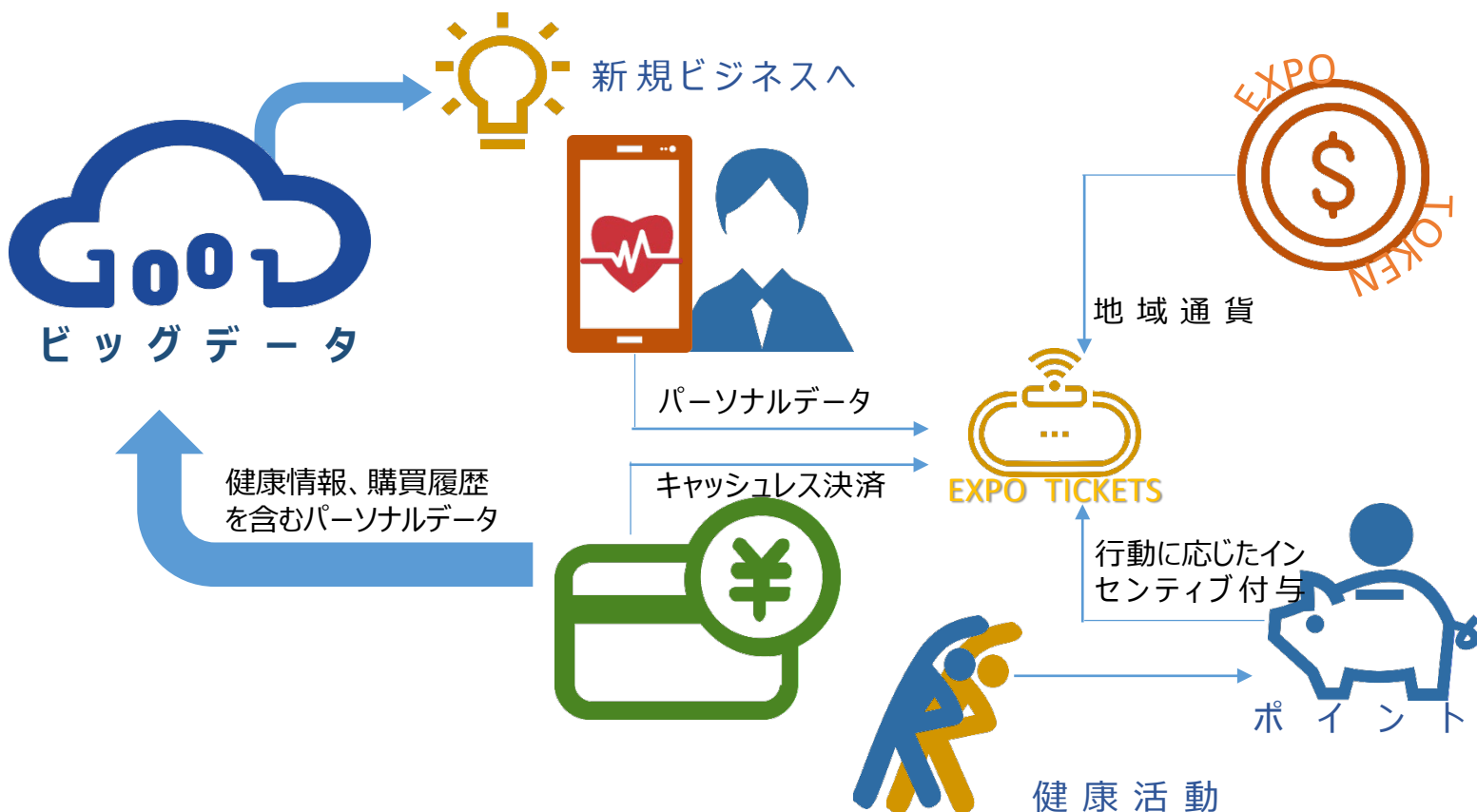
災害時には、市民、外国人いずれにも最新の避難情報が届き、急病や事故等緊急時には、リアルタイムで受け入れ可能な病院に向かう救急車が自動配車。



誰にとっても便利で、使いたくなる金融

ウェアラブルデバイスでキャッシュレス決済、魅力あるポイント還元が、積極的な健康生活を後押し

地域通貨を創設。市民はキャッシュレス決済機能をつけたウェアラブルデバイスで、決済し、同時にパーソナルデータ（バイタルデータ、位置情報、購買履歴等）もとる。キャッシュレス決済するごとにポイントが付与されるとともに、健康的な行動でもポイントを獲得できるようにする。ポイントは地域通貨として利用することができるが、各個人は、パーソナルデータがビッグデータとして利活用されることを事前に承諾することで、たまったポイントが2倍、3倍になるなどのインセンティブをつけ、データ利活用促進も図る。



【例】
万博トークンと名づけた地域通貨を万博開催前からスーパーシティで指定されるエリアで利用。たまったポイントは万博チケットに交換することで、利用者は拡大。ポイント取得に注力するため、積極的な健康活動も促される。

オンライン教育による人材育成 実践教育で行政データ活用

オンライン教育によりAI、データを実業に利活用できる人材を育成 実践教育で行政データを活用し実装加速

オンライン教育システムの導入により、健康・医療分野において AIやデータ利活用により課題解決の手法を構築、実ビジネスに応用できる人材を育成し、社会に供給する。アジア圏の学生にも、オンライン教育を提供し（9月～3月）、大阪の大学への入学につなげる（4月～）。企業と連携した実業プロジェクトも、積極的に推進、新たなビジネス創出につながる教育をめざす。実践的な教育の実現と社会実装を加速するため、行政がもつ実データを活用した教育プログラムを実施し、具体的な実証を重ね、行政データの活用によるコスト削減の効果の検証等、その有用性を示し、実装を加速する。

未来社会デザイン情報工学大学院 (ウエルネス・アグリ情報工学大学院)

AIや実データを用いて、実際の社会課題の解決手法を構築、実社会やビジネスに応用できる人材を育成する



コンピューターサイエンス
(AI、データサイエンス)



ウェルネス・アグリ
(医療・健康・看護・農学等)



アジア圏学生積極受け入れ
海外教育リソース導入
(スタンフォード大、ミネルヴァ大)

内 教 育 ・ 研 究 容 究

連 国 携 際

特徴ある実践的教育手法



オンラインシステムによる講義により、教育現場＝教室ではなく、フィールドワークが主体となる



実際の社会課題に対し、ソリューションの立案から実装までをリアルなフィールドで実践



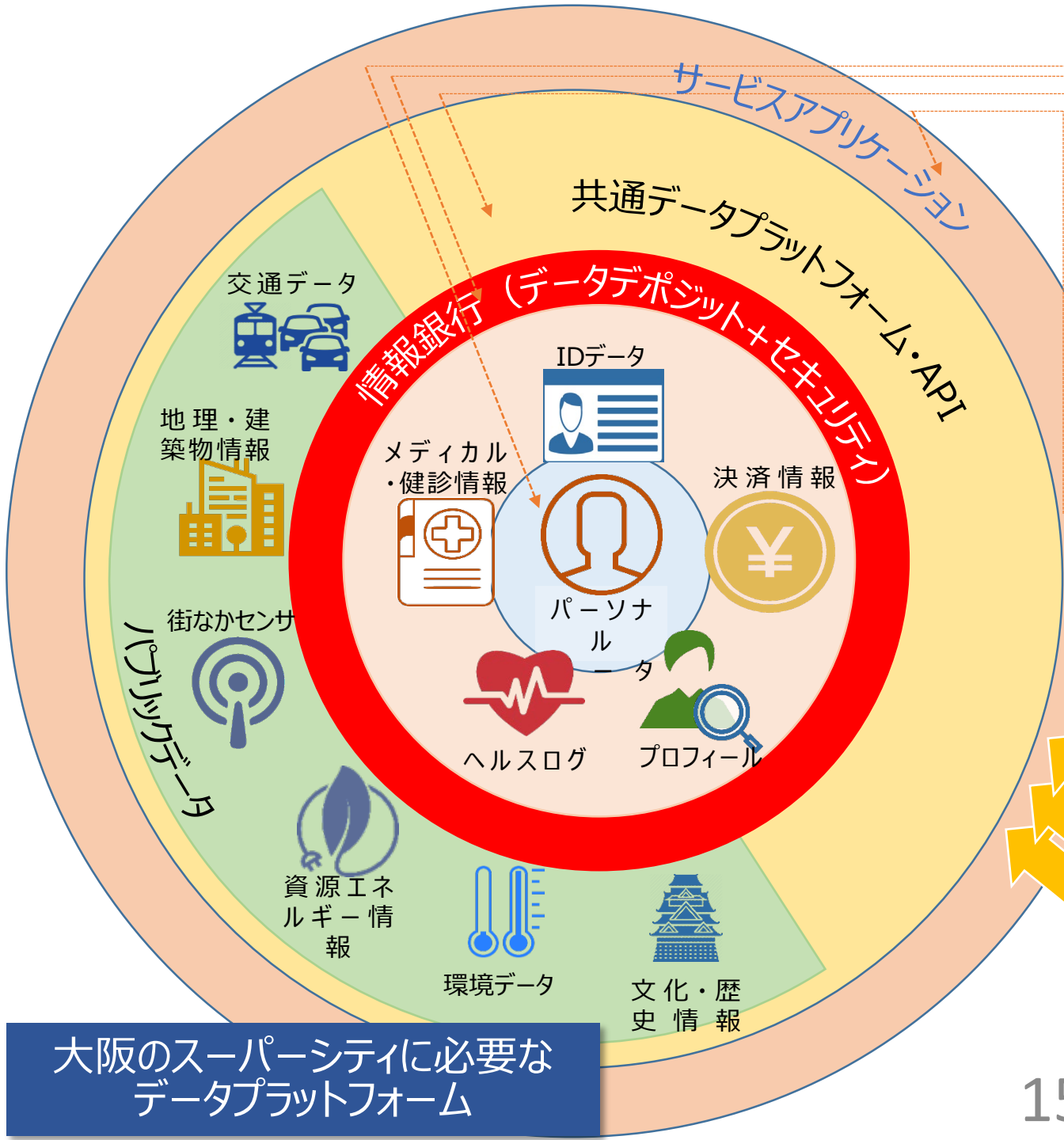
企業や医療機関などの実業との連携基盤により実装を意識したプロジェクトに従事



行政がもつ様々な実データを活用した実証重視の教育



アジア圏からの参加により、異なる文化・社会背景、考え方に触れる



パーソナルデータは分散管理されているが、データのアクセスプロトコルを共通化し、データ運用の権限を個人に集約する。

パーソナルデータの管理と匿名化処理、運用は情報銀行が個人の委託を受けて行う。

サービスを開発・提供する企業は活用できるデータセットとオープンAPIをもとにサービスを設計。

データポータビリティ、インターオペラビリティの観点から国が都市間の相互互換性を調整する。



データを組み合わせて活用することで、新たな付加価値を生み出すサービスが提供されるとともに、社会課題の解決をはかる。

大阪のスーパーシティに必要な
データプラットフォーム

都市OSとデジタルツイン

物理的な都市構造、インフラ等をデータによって仮想空間にデジタルツインとしてリアルタイムで構築。市民も同様にデータによってデジタルツインを仮想空間に投影することで、サービス提供者は仮想空間でサービスを構築することで、物理空間に反映される。

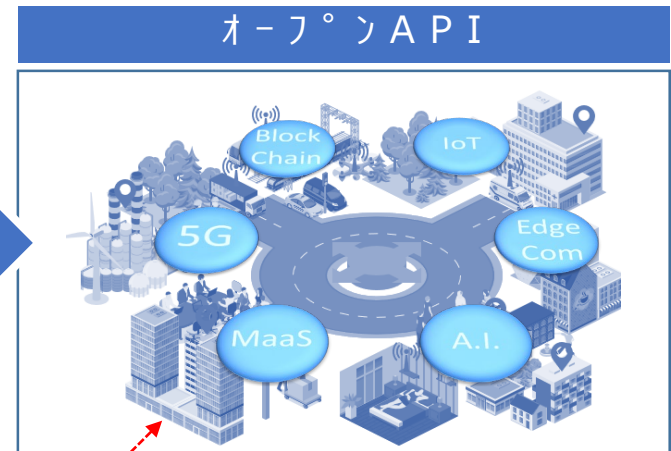
サービスプロバイダ



ID〇〇さんが、心不全の兆候アリ、〇〇地点に救急車を配車



オープンAPI



デジタルツイン構築

物理空間への反映

例えば「美術館」のデジタルツインを構築。展示(投影)される美術品もデジタルツインで日によって、もしくは鑑賞者によって内容が変わる

大阪関西万博もデジタルツインを構築し、スタートアップや企業にオープンにすることで、実証実験を行いやすい環境とする

大阪スーパーシティは、「ウェルネス」に関連するデータを豊富に備えた市民のデジタルツインが多く存在することが特徴づける上で重要

6つの提案によるペルソナごとのベネフィット



高齢者(独居)

個人の病歴やかかりつけ医の情報が顔認識情報と紐づいている

IoTセンサが埋め込まれたスマートホームが在住者の認知機能、運動機能、感染性疾患に関するデータを管理

旅行先で気分が悪くなり、地元の医療機関にいくとカルテや過去の処方箋の情報が共有され、適切な処置を受けた

ウェアラブルセンサが心筋梗塞の兆候を検知。かかりつけ医と近くの病院に情報が共有されるほか、近くのAED搭載のタクシーが配車される

退院後のリハビリについて自宅近くのスポーツジムに在籍する理学療法士が対応。家でもできるよう、遠隔指導

再発予防に向け、食事メニューも改善。不足栄養素などを考え、レシピを提案。食材は買い物代行が運んでくれ、スマートキッチンが調理を支援

リハビリを兼ねて街を散歩。適切な歩き方やスピードはAIが体の調子や天気をみながらアドバイス。歩数に応じて地域通貨が付与される。

散歩中、熱中症の兆候がある場合や自分がどこにいるか分からなくなった場合は、近くのウェルネスステーションへ

登録された親族以外から振り込め詐欺の電話。AIが通話内容を分析し、被害にあわないよう対策 自動で決済停止



インバウンド観光客

バックグラウンドや健康に関する基本情報は出発前に入力。顔認証データと紐づいたIDを自動付与。各人にAIコンシェルジュが付く

ホテルにチェックインすると様々なウェルネスセンサが搭載された部屋と健康状態に応じた旅程が提示される

時差ボケが治るよう、調光、香り、音楽など眠りにつきやすい環境を提供

いかなる宗教にも対応できる様、礼拝の時間や可能な場所などの紹介を時間になると通知する

体調や嗜好に応じて不足栄養素を補い、しかも個人の嗜好、宗教に合った食事メニューを提示。提供可能なレストランの予約と交通手段を合わせて手配

帰国後も特定の栄養素が不足しないよう、現地で調達可能な食材でつくるレシピを紹介

富裕層向け健康診断とアンチエイジングやスポーツ体験等、非医療分野のウェルネスを組み合わせたウェルネスツーリズムを提供

宿泊、各公共交通利用とともに食事を含むウェルネスサービス、アクティビティが使い放題のフルパッケージプランも用意

リピーターを増やすため、帰国後もウェルネスアドバイスのサービスは継続して提供する

再訪日時も前回と同じAIコンシェルジュが対応できる様、行動のログや嗜好に関するデータは情報銀行に保管しておく

6つの提案によるペルソナごとのベネフィット



多忙なビジネスマン
国内外の出張が多い
営業マン。オフィスはう
めきた 2 期に。妻と共
働き。子供は 2 人

→ 出社時にパソコン画面
とセンサ付きマウスでス
トレスチェック。高い場
合は解消メニューが提
示される

→ 時差ボケが治るよう、調光、香
り、音楽など眠りにつきやすい
環境を提供

→ 外回りのスケジュール確
認。効率的な交通手
段の提示と不足栄養
素に基づく、ランチ提案
を受ける

→ インフルエンザの可能性がある
場合は、薬局から検査キットも
届く。インフルエンザや一定期間
の治療が必要な場合は、会社
に自動で報告。アポ先へのフォ
ロー体制が上司、同僚に提案
される。他の社員の罹患状況も
踏まえ、感染シナリオ予測、ワ
クチン手配を企業AIが行う

→ 朝から風邪が熱っぽい。
家からスマホでかかりつ
け医の遠隔受診。処方
箋は近くの薬局へ。調
剤された薬はMaaSで
すぐに自宅に届く

→ 歩き方の変化を検知。
靴の状態や潜在的な
運動機能低下のリス
クを分析。ウェルネス
ステーションで機能計測と
改善策の提示をうける

→ 健康経営の共有スペースとし
て、オフィスビル内にウェルネ
スステーションを設置。様々な疾
病リスクの計測と改善に向けた
製品やプログラムの提案が受
けられ、試すことができる

→ 災害発生時に家族の
位置情報と安否確認
情報が届く

→ 帰宅困難な状況の場合は、
近隣の宿泊施設、オフィスの
空き会議室など、仮の避難所
情報が拡散される



忙しいビジネスウーマン
オフィスで企画を担当
するビジネスウーマン。
夫と共働き。子供は
2 人

→ 子供のうち兄が保育園、
妹が幼稚園へ通う。送
迎はスマート配車によ
るMaaSで

→ オフィスビルの中にナースリーが
設置される。送り迎えが楽にな
るほか、園児の管理がICTで
企業のシステムと連動、効率
化され子供たちと一緒に社食
で昼食も可能に

→ 子供の給食情報や、夫
婦の健康状態、不足
栄養素から夕食の献立
をAIが提案。選択する
と帰宅時間に合わせて
食材配達

→ 購買履歴からそろそろなくなる
調味料や卵、牛乳などを推測
し、合わせて提案

→ 忙しくてジムに行く時間
もなく、運動不足。スマ
ホでトレーナーが運動指
導。事前に登録する運
動機能や健康状態に
合わせた最適なプログ
ラムを組んでくれる

→ 食事アプリとも連動。よく運
動した後や立ち仕事の後は、
抗披露効果の高い食事メ
ニューを提案してくれる

→ 子供の予防接種の履
歴など母子手帳をデジ
タル管理。子供が成長
した後も履歴が瞬時に
確認できる

→ 外食先での食物アレルギー
チェックにも使える

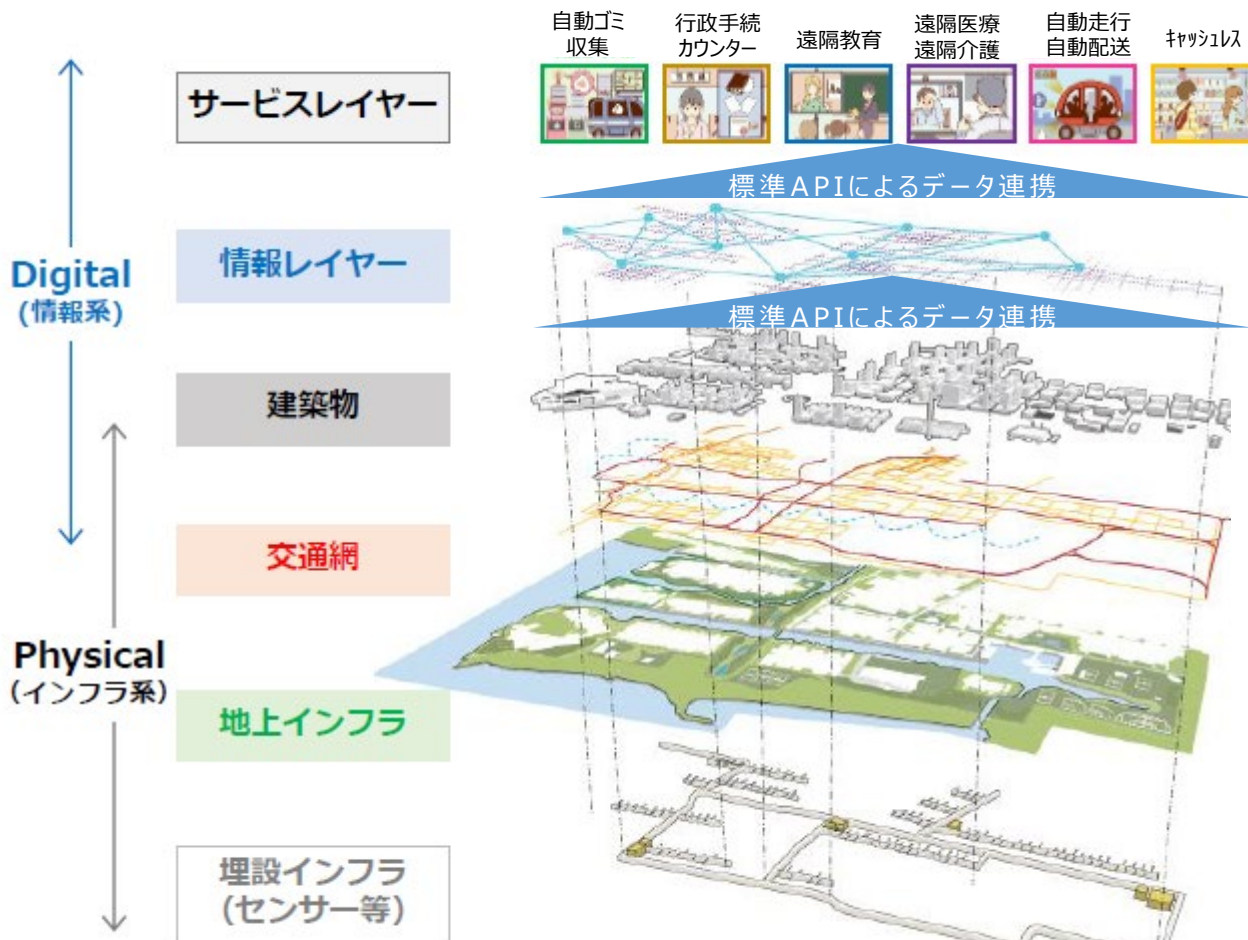
→ 休日に家族で公園に。
夫と子供はサイバース
ポーツに、自分は自身
の運動機能や健康状
態にあったパーソナルヨ
ガを楽しむ

→ お昼は公園でバーベキュー、
夕方は好きなプロサッカー
チームをスマートスタジアムで
応援。MRで選手データをみ
たり、飲食物はスマホでオー
ダー、ロボットで配達、決済
はすべてキャッシュレス。

スーパーシティの概要

参考

スーパーシティを支える都市構造：物理的なインフラとデジタルインフラの組み合わせ。データ連携に必要な通信基盤、センサー等を物理的インフラに埋め込み新たなサービス提供を可能にする都市環境。データの適正な管理、万全なセキュリティの確保。必要なインフラ整備は国主導で迅速に推進。予算確保、官民連携のファイナンス手法を検討。



サイバー空間・物理空間の融合・連携

エリアの選定：
ごく少数の地域を選定

1) グリーンフィールド型：
都市の一部区域や工場跡地などで、新たな都市開発を行い、新たな住民を集める

2) ブラウンフィールド型：
すでにあるまちで住民合意を形成しつつ、必要な再開発・インフラ整備を行う

大切なデータは国内の安全な場所で
厳重に管理・運用



スーパーシティに関する特区法改正の考え方

参考

国家戦略特区との関係：

従来の国家戦略特区の枠組みを基礎としつつ、スーパーシティ用の特別な枠組み（住民合意を前提に、より、迅速・柔軟に域内独自の規制特例を設定）を新たに追加する。

	現行の国家戦略特区	スーパーシティ（原案）	スーパーシティ（改正案）
区域計画の決定	区域会議（内閣府担当大臣、首長、民間）で区域計画案を作成 ↓ 総 理 認 定	区域会議（内閣府担当大臣、首長、民間）で基本構想案を作成 ↓ 自 治 体 議 会 で 承 認 ↓ 住 民 合 意 ↓ 総 理 認 定	同 左
規制特例の設定	法律・政省令を問わず、個別に関係省と協議し、規制特例を設定	基本構想で定められた事項に関して ■ 地方事務にかかる政省令の特例 = 条例で定められる ■ 国の事務分権、その他の特例 = 特区諮問会議で審議し、必要に応じ、関係大臣への勧告、勧告後の措置などの手続きを設ける	区域会議は、首相に特例措置を要望 ↓ 首相が規制所管大臣に検討を要請 ↓ 大臣が特区諮問会議の意見を聴いた上で可否を判断
規制特例の運用	区域計画に基づき特例を運用	条例もしくは特例措置に基づき特例を運用	

6月7日閣議決定したが、先の国会では廃案。秋の臨時国会での成立が想定される

「大阪におけるスーパーシティのあり方」に関する提言 ～スーパーシティ「Wellness Centric Inclusive and Vibrant City」の構築を めざす6つの提案と今後の進め方～

大阪商工会議所

1. 大阪がスーパーシティの指定を受ける意義

スーパーシティは、様々なデータを分野横断的に収集、整理し提供する「データ連携基盤」を軸に、地域住民に多様なサービスを提供し、住民福祉・利便性向上をはかる都市づくりを推進するものである。万博や万博のレガシーとして最先端都市の実現をめざす大阪は、スーパーシティの指定を受けることで、データ連携基盤の整備を加速するとともに、規制緩和や積極的な住民参加により、これまで進展が困難であったプロジェクトを推進すべきである。

大阪府・大阪市におかれては、「大阪スマートシティ戦略会議」を立ち上げ、自動運転をはじめとする次世代モビリティや次世代ヘルスケア等、スマートシティをかたちづくる具体的なプロジェクトを進める戦略づくりに着手される。スーパーシティは、大阪スマートシティ戦略を具現化し、さらに様々な未来社会の実証、実装を促進すると考えられるため、官民あげて大阪がスーパーシティに指定されるための取り組みに注力すべきと考える。

2. 大阪におけるスーパーシティのあり方

(詳細は資料 1 参照)

スーパーシティは、区域内の取り組みに関する基本構想について、住民の合意が求められる仕組みとなっている。そのため、多様な住民にとって共通する課題に焦点を当て、解決を図るまちづくりをめざす考え方が必要となる。大阪のスーパーシティについては、世界に先行する少子高齢化への対策、健康寿命延伸、増加する訪日外国人との共生に対応する取り組みを行い、「少子高齢化が進んでも、誰もが心身の健康を維持し、思いのままに、ストレスなく活動的な生活ができるまち (Wellness Centric Inclusive and Vibrant City)」をめざすことを提案する。

具体的には、スーパーシティの制度を活用し、大阪では、以下のようなことが可能となる未来社会を創るべきだと考える。

住民が健康維持、疾病予防に積極的に取り組み、病気になっても QOL（生活の質）を維持し、あらゆる人が利便性の高い医療を受けることができる。介護については、効率を高めて人手不足を補い、被介護者の機能改善も実現する。高齢者、障害者、患者、訪日外国人など、誰にとっても利便性の高い交通システムや金融システムで、行動的な暮らしを支える。AI やデータを実業で活かすことができる人材が次々に育成され、こうした取り組みが継続、拡大できる。

このような理想の未来社会を実現するために、大阪のスーパーシティにおいて、以下の6つの具体策を進めることを提案する。

- ①簡単に健康状態を計測し、無理なく継続できる方法で健康維持、疾病予防
- ②最適な在宅・日常の疾病管理、安心な救急対応、利便性の高い医療
- ③効率的で機能改善効果も期待できる介護
- ④誰にとってもストレスフリーで、積極的な生活を支える交通
- ⑤誰にとっても便利で、使いたくなる金融システム
- ⑥オンライン教育による人材育成、実践教育で行政データを活用

3. 大阪のスーパーシティを具体化する今後の進め方

①大阪のスーパーシティを官民一体で検討する体制整備

スーパーシティの公募に際して、より具体的な提案を行うため、また、採択後に、スムーズなスーパーシティ構築を実現するために、企画、計画段階、助走期間から、官民一体で具体的に進めるプロジェクトや、データ連携基盤のあり方について検討する必要がある、大阪府、大阪市、大阪商工会議所、民間企業等で構成される適切な検討体制の整備を進められたい。

②大阪のスーパーシティを構成する具体的なプロジェクトの検討

スーパーシティが制度化された際に、いち早く魅力ある具体的な提案を行うには、大阪のスーパーシティを構成する実際のプロジェクトを想定しておく必要がある。スーパーシティを構築するには、住民メリットや、緩和すべき規制、実際のまちづくりにおける課題等、自治体のリーダーシップによる検討とともに、企業やアカデミアが力を十分に発揮して、具体的なプロジェクトが創出されることが重要である。

大阪商工会議所は、ライフサイエンス、ウエルネス、スポーツ、AI、IoT、MaaS、ブロックチェーン、キャッシュレス等、従来から、スーパーシティを構成するプロジェクトを担う可能性のある企業や最先端研究を推進するアカデミア等との強いネットワークがあり、具体的な企業コンソーシアム組成やモデルケース創りの実績もある。

大阪商工会議所が有する企業、アカデミア等のネットワークを活用して、「大阪におけるスーパーシティのあり方」で示した6つの提案に基づく最適なプロジェクト、企業等のコンソーシアムづくりについて、官民一体体制において検討することに早期に着手されたい。

③「データ連携基盤」の検討

スーパーシティの実現に向けては、前述のプロジェクト推進とともに、それ

らを支える「データ連携基盤」の構築を車の両輪として、推進していく必要がある。

については、大阪のスーパーシティで進めるべきプロジェクトが次々と実現される最適の「データ連携基盤」が整備されるよう、前述の官民一体の体制において、データ利活用のルール作りや、データ活用を伴う多彩なサービス提供を可能とするオープン性を保ちながら、セキュリティを担保する API の検討等を進められたい。

「データ連携基盤」の整備についても、例えば、MaaS のように、住民が利便性を実感できる分野から、積極的に先行事例の実証を進めることも肝要。

自治体のリーダーシップのもとで実証を重ね、そこで収集したデータを集積しつつ、並行して各実証データの統合方法、「データ連携基盤」の最終的なあり方を官民一体体制の中で検討していくことを推進されたい。

④先行プロジェクトの組成と積極的な実証の推進

最先端都市の実装をめざすには、トライアンドエラーを繰り返し、検証を積み重ねることが必要であり、先行プロジェクトを立ち上げ、実証することは極めて重要。大阪府、大阪市、大阪商工会議所では、すでに、「実証事業推進チーム大阪」を設けて大阪での実証を支援し、着実な実績をあげているが、大阪のスーパーシティのコンセプトに適した先行プロジェクトについても、積極的に実証を進めることが望まれる。

住民にとってのメリット、プロジェクト推進における課題等を検証するには、実際に住民が関わる形で実証することが必須である。特に、本提言で示すスーパーシティの実現に向けた健康や医療等に関連する課題解決プロジェクトには、積極的に住民が参画する実証フィールドの設定が不可欠である。庁内関連部局との連携をさらに強化し、住民を対象にした実証フィールドの整備に一段の注力をお願いしたい。

以 上